

地域社会との緊密な連携を築く

## 地域と連携し、健やかな子どもを育てるPTA活動

常滑市立常滑西小学校PTA

### 1 はじめに

本校は「焼き物のまち」常滑市の中央部に位置し、校区には、多くの窯元や焼き物関係の商店が集まる「常滑やきもの散歩道」がある。校区を歩けば道端に何気なく置かれたオブジェなどに出会うことができ、生活の中に常滑焼があふれている。



【40周年を迎えた常滑西小学校】

明治5年に義校として創立され、昭和22年には「常滑町立常滑小学校」と改称。本PTAはそのときに誕生している。昭和55年には児童の増加に伴い「常滑西小学校」と「常滑東小学校」の二つに別れ、「常滑西小学校」として、昨年度40周年を迎えた。児童数627名、学級数23（内特別支援学級5）、PTA会員数472の中規模校である。「力、夢、思いやり」を校訓とし、子どもたちの自己有用感の向上を大切にし、日々教育活動を進めている。

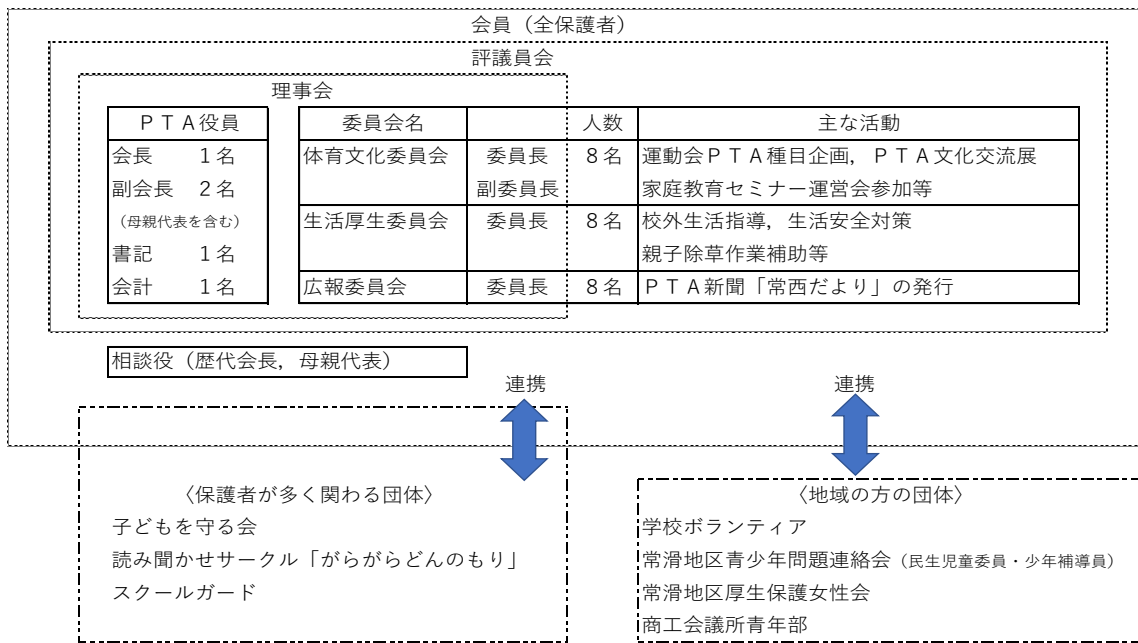
3世代で暮らしている家庭も多く、父母や祖父母の中には本校の卒業生も多い。そのため、学校に理解のある家庭が多く、協力的である。毎年PTAが販売している「常西Tシャツ」を、子どもだけでなく保護者も一緒に購入して日常的に着ている様子からも、学校への愛情が感じられる、恵まれた地域である。

### 2 研究への取組

#### (1) 研究のねらい

子どもたちの安心・安全を守り、健やかな子どもを育てていくためには、学校・家庭・地域の協力が不可欠である。また、時代とともに共働き家庭が増え、PTA活動への参加も仕事と並行して行う必要がある。そこで、PTA組織を整理するとともに、地域の各団体等とそれぞれの役割を大切にした連携を行っていくこととした。

## (2) 研究の組織及び主な活動



## 3 実践活動の概要

### (1) PTA組織の見直し

時代の変化に伴い、共働き家庭が増えたことを考慮し、PTA委員の組織の見直しを行った。令和元年度には、4つあった委員会を3つにし、活動内容を整理した。また、令和2年度からは、各学年男女3名ずつ選出していた「評議員」を、各学年男女2名ずつとし、その中の代表者の会である「理事会」のメンバーも、各学年2名から1名となるよう調整をした。見直しによって、会員の負担が減ったこと、企画・運営をする上で活動しやすい人数になったことが成果である。

### (2) 朝の見守り活動《PTAも地域も一緒に》

本校の通学路は、交通量の多い4車線の道路があったり、歩道をとる道幅がないが、車の通りが多い道路があったりする状況である。そんな中、PTAと地域の各団体が連携をして、子どもたちの見守り活動をしている。



- ① PTA  
PTAの評議員が

【PTA挨拶運動】

3日間、2つの昇降口に分かれて、挨拶運動を行っている。今年度は、11月25日から27日の3日間で行った。「あいさつ運動」ののぼりを持ったり、常滑市の招き猫のキャラクター「トコタン」の着ぐるみを着たりして、子どもたちが元気に1日をスタートできるよう呼びかけている。子どもたちは「トコタン」が大好きで、見つけると目を輝かせて「おはよう」と集まってきて、挨拶の声も一段と元気になる。

② 子どもを守る会

「子どもを守る会」は、昭和39年に市内で19人が交通事故で亡くなり、うち5人が中学生以下の子どもであったことから、翌年の昭和40年に、「自分たちの子どもは、自分たちで守ろう」をモットーに、幼・保育園児から中学生の子どもをもつ保護者を会員として結成された会である。PTAとは別の組織ではあるが、本校の保護者の多くが加入しており10か所の交差点に当番制で立哨をしている。

③ スクールガード

学校からの呼びかけにより、地域の方22名が登録をしている。登校時だけでなく、下校時にも各自近くの通学路で見守り活動をしている。

④ 常滑地区青少年問題連絡会(民生児童委員・少年補導委員)  
常滑地区更生保護女性会

青少年問題連絡会の皆さんは月2回3か所の校門で、更生保護女性会の皆さんは月2回2か所の校門で挨拶運動をしている。元気な挨拶を呼びかけながら、交通安全のプレートを持ち、子どもたちが横断歩道を渡る時の見守りも同時に行っている。

⑤ 学校ボランティア

地域の方2名が週2回、学校近くの横断歩道で安全指導をしている。長年関わってくださり、子どもたちの中には、ボランティアさんとの朝の会話を楽しみにしている子も多い。



【学校ボランティアによる横断指導】

⑥ 商工会議所青年部

今年度は、夏休みが短縮され、暑い夏に負けずがんばる子どもたちを応援しようと、常滑市商工会議所青年部の皆さんが朝の挨拶運動をしてくださった。汗にまみれくたくたに



なった子どもたちも、青年会議所の方の挨拶の声やメッセージボードの言葉に元気をもたらすことができた。

### (3) 祭りの巡視

#### 《地域の活動に連携》

本校の校区には、伝統ある祭りがいくつかある。地域での人と人とのつながりが強く、子どもたちと地域の大人の関係が良好であるのも、この祭りが地域に根付いているからこそである。今年度は新型コロナウイルスの影響で、どの祭りも神事のみ関係者で行うこととなったが、例年「春の山車祭り」は職員、「権現祭り」「天王祭り」では、PTAの生活厚生委員と職員で巡視を行っている。地域での子どもたちの様子を見守ると同時に、地域の方とのつながりを深める機会になっている。



【春の山車祭り】

### (4) PTA新聞の発行《PTAから地域へ》

広報委員会がPTA新聞「常西だより」を年間3回発行している。この新聞は、いつもご協力いただいている団体の皆さんにも発送している。広報委員会では、企画・構成・印刷業者との連絡等すべて委員の手で進め、熱心に活動している。子どもたちの活動の様子やPTA活動について地域の方に知っていただくことで、学校やPTA活動に関心をもっていただくとともに、より強いつながりができると考えている。

## 4 おわりに

共働き家庭の増加など、時代の変容によって、PTA活動の在り方も時代に合ったものに見直していく必要がある。今回、PTAの組織の見直しを行ったが、評議員の中でもPTA活動に対する考え方はさまざまであり、より参加しやすくやりがいのある活動が求められる。その中で今回、地域との連携について振り返り、学校やPTAの力だけでは難しい部分は地域の手を借り、ともに子どもたちを育てていくことで、将来地域を支えていく人材となっていってくれと実感した。